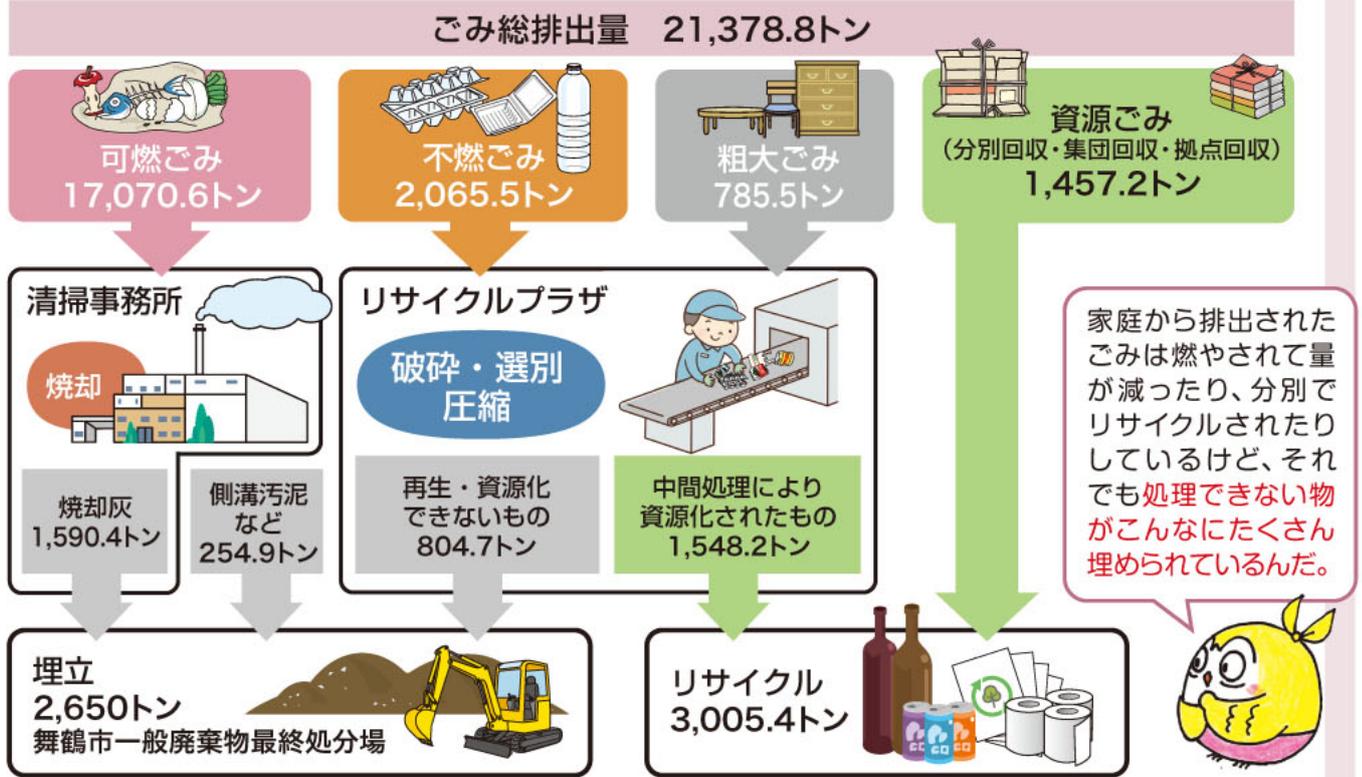
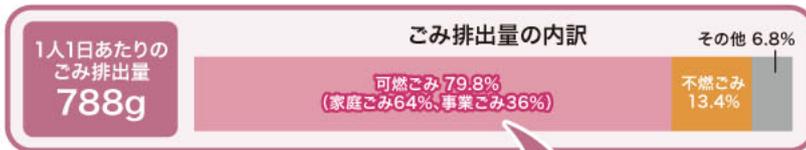


舞鶴市のごみの状況

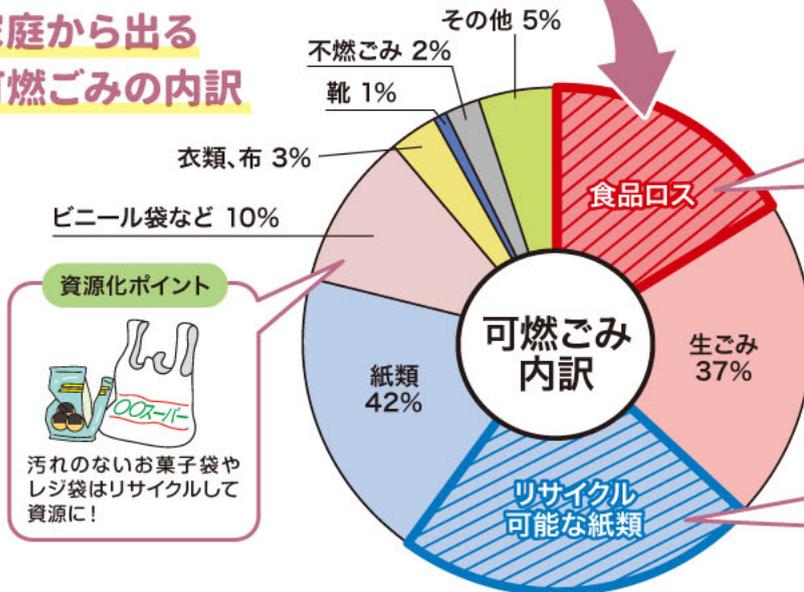
令和6年度の年間ごみ処理量



令和6年度1人1日あたりごみ排出量



家庭から出る可燃ごみの内訳



ごみ減量ポイント

生ごみとして排出されたものの約44%が食品ロス！
食べ残しや期限切れを減らそう！水切りもしっかりと！

資源化ポイント

紙ごみの約55%がリサイクル可能な紙類！
混ぜればごみ、分ければ資源！

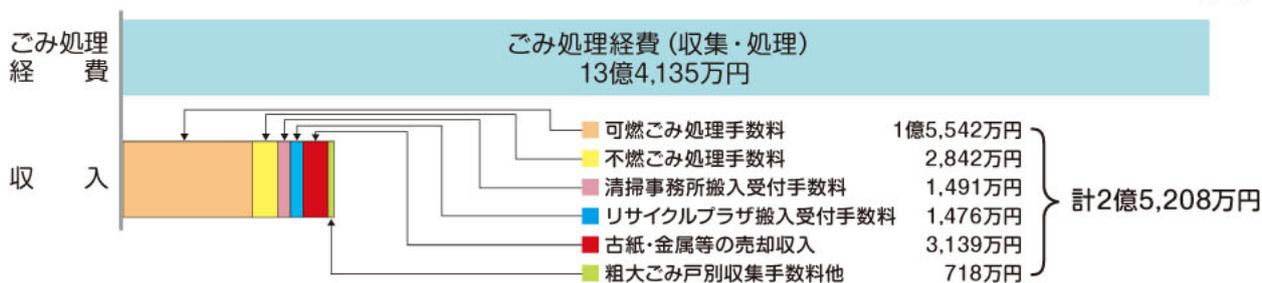


資源化ポイント
汚れないお菓子袋やレジ袋はリサイクルして資源に！

ごみ処理経費と収入について

令和6年度のごみ処理経費の状況

ごみの収集や施設の維持管理に約13億円を要しています。



ごみ処理手数料の使いみち

令和6年度の可燃ごみ処理手数料、不燃ごみ処理手数料は、指定ごみ袋の製造、高齢者等ごみ出し支援戸別収集事業のほか、ごみ処理に関する経費に充てています。

名称	金額
指定ごみ袋関連経費(製造・保管配送等)	7,358万円
高齢者等ごみ出し支援戸別収集事業	396万円
ごみ処理経費(収集・処理・最終処分)	1億0,630万円
合計	1億8,384万円

ごみの有料化(指定ごみ袋)施策について

ごみの有料化は、ごみの減量やリサイクルを進めるための仕組みであり、その収入はごみ処理体制の維持を図るための重要な財源になっています。

また、ごみ量の多い人と少ない人との公平性を図るための仕組みでもあり、全国の約67%の自治体で実施しています。



どうしてごみの減量が必要なの？

ごみを減らせば、将来負担を小さくすることができるよ。

私たちのライフスタイルを少しずつ見直し、ごみ減量やリサイクルに取り組むことが、持続可能な社会の実現に繋がるんだ。

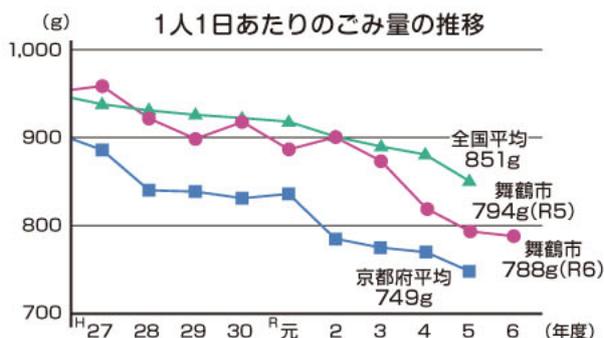


舞鶴市の1人1日あたりのごみ量の状況

市民の皆様のご協力により、一人あたりのごみ排出量は年々減少していますが、依然として、可燃ごみで排出されたものの中には紙ごみや食品ロスが多く含まれています。

本市のごみ量は全国平均を下回るものの、京都府平均と比較すると、まだ多い状況にあります。

ごみ減量は進んでいますが、さらなるごみの減量が必要な状況にあります。



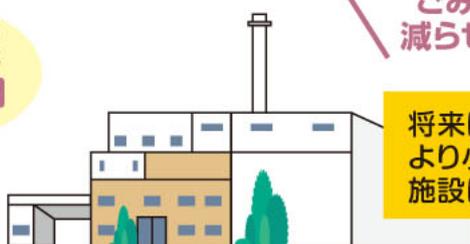
ごみを減らせば、将来負担を小さくすることができます

ごみの処理には多額の費用を要し、環境への負担も発生します。

最終処分場の増設工事
約15億円
(令和4年完成)

清掃事務所の長寿命化工事
約38億円
(令和6年完成)

リサイクルプラザも
大規模改修が必要



ごみを減らせば

将来はより小さい施設に

- 整備費用減
- 環境負担減
- CO2減
- 最終処分場が延命